鈴鹿工業高等専門学校	電気電子工学科	開講年度	令和06年度 (2024年度)
学科到達目標			

本学科の卒業生は、基礎理論と十分なる実験・実習技術を背景に、工業分野で活躍できる実践的技術者として以下の知識・技術・能力を身につけている必要がある。

- (A)技術者としての姿勢
- <視野> 地球人としての視野をもって自己と世界の関係を理解し、地球規模で物事を眺める。
- <技術者倫理> 技術が人類・社会・自然におよぼす影響や生産により生じる環境と社会の変化を認識し責任を自覚する。
- <意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。
- (B) 基礎・専門の知識とその応用力
- <基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。
- <専門> 電気・電子・情報通信分野の基礎理論、基礎技術の知識を習得している。
- <展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的にまとめることができる。
- (C) コミュニケーション能力
- <発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。
- 〈英語〉 英語による基本的なコミュニケーションができる。

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

合計単位:12単位

		学科	開講年》	/ #	通・学科	専門	<u>台計集</u> ・一般	<u> </u>		目名		単	 位数		5	実務経	験のを	る教員名	
	電気	電子工学科	本4年		学科			冒		茲気学	Ι		2				横山春		
		電子工学科	本4年		学科		 			回路Ⅱ			2				西村高		
		電子工学科	本4年		学科	Ę	事門			子工学			2				西村高		
	電気	電子工学科	本4年		学科	Ę	事門		電気	記法規			2		川尻晋平				
		電子工学科	本5年		学科	Ē		#	訓御ミ	システム	4		2						
	電気	電子工学科	本4年		学科	Ę	[門]	イン	ンター	-ンシ	ップ		1			1	上業担	当者	
	電気	電子工学科	本5年		学科	Ē		イン	<u> シタ-</u>	-ンシ	ップ		1	企業担当者					
科目分			科目番号	単位種別	単位数	学年別週 1年 前 後 1 2 3 Q Q Q	2 2 4	業時 2年 前 1 2 Q Q	後	3年 前 1 Q Q	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ź	4年 前 1 2 Q Q	後 3 4 Q Q	5年 前 1 2 2 Q 0	後 2 3 (— 担当 ^身 員 4 Q	対 履修上 の区分	
—	必修	化学		0001	履修単 位	2	2 2											山崎	到
一般	必修	国語IA		0006	履修単 位	2	2 2											石谷	春
一般	必 修 英語 I A			0007	履修単位	4	4 4											日司浩松江長み古百	圣
- 般	必修	英語 I B		0008	履修単 位	2	2 2											古野	
般	必修	保健体育		0009	履修単 位	2	2 2											宝来	殺
— 般	選択	美術		0010	履修単 位	1	2											久留原 昌宏 	Į.
- 般	選択	音楽		0011	履修単位	1	2											久留原 昌宏 阿部 浩子	
_ 般	選択	書道		0012	履修単位	1	2											久留原 昌宏 	Ī
— 般	選 択	海外語学実習		0013	履修単 位	1	集中講義	E .										全学科 全教員	
—	必修	国語 I B		0014	履修単 位	1	2											熊澤	
一般	必修	歴史 I		0015	履修単 位	2	2 2											藤野	
	必修	現代社会 I		0016	履修単 位	1	2											── 藤野 , 一子,富 田 暁	目

— 般	必修	情報処理 I	0017	履修単 位	1	2	遠藤 健太	
—	必修	情報セキュリティ概論	0018	履修単 位	1	2	遠藤 健太	
— 般	必修	基礎数学B	0019	履修単 位	2	2 2	川本 正治	
— 般	必修	基礎数学A	0020	履修単 位	4	4 4	飯島 和人	
— 般	必修	物理 I	0021	履修単 位	2	2 2	丹波 之宏	
専門	必修	ものづくり実習	0002	履修単 位	2	4	西村 高 志,生 田 智敬	
専門	必修	工学基礎実験	0003	履修単 位	1	2	西村 一寛	
専門	選択	インターンシップ	0004	履修単 位	1	集中講義	各学年 担任	
専門	選択	創造工学演習	0005	履修単 位	1		創造活 動プロ ジェ 担当 ト 担当 教員	

### 140	 鈴鹿	工業高等	 専門学校	開講年度 令和06年度 (2	 2024年度)	授業科目	国語IA		
野田田田	科目基礎				•	•			
製造機能 製造 製造 製造 製造 製造 製造 製造 製		<u> </u>	0006		科目区分	一般 / 必	修		
###						,			
解析							· -		
世帯		: ‡ +	教科書:		,「高等学校 現代	 代の国語」(数研	[出版), 「日本近代文学選 増補版		
別連目標 無数2との様とな日本3の文章を学習することにより、日本語への理解力・素塊力を高めるとともに、文学のもつ素晴らしさや、大学を予め画気に入いて理解することができる。 ループリック		.42)			字アルファ」(桐原	京書店)			
深語・小説、計画などの様々な日本語の文章を学習することにより、日本語への理解力・表現力を高めるとともに、文字のもつ素隔らしきや文を学不感覚について理解することできる。 ループリック 理想がは回達レベルの目立		 5	位台 街	[型]					
リーブリック	評論、小調	党、詩歌など			本語への理解力・記		ともに、文学のもつ素晴らしさや、		
理想的な影響について理解すること			· C/±//+ 9 8						
評価・				理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベ	 いんの目安	未到達レベルの目安		
対象側につけることができる。	評価項目1	L		評論・小説・詩歌などの現代の応 用的な文章について理解すること	評論・小説・詩歌 本的な文章につい	などの現代の基	評論・小説・詩歌などの現代の基本的な文章について理解すること		
	評価項目2	2		力を身につけることができる.					
教育方法等 本科目は、高等専門学校の国語の基礎能力を「現代文・表現」の分野を中心に身につけさせる。具体的には、第1学年の学生として中学校までの学習の国語を含めながら、高等生、そして現代に生き合目本人として必要な近代、現代文学の最佳が温度を表現によっての内容は学習、教育別達目様々人の「現野・みよび(C)の「発表)に対応する。・「授業は諸等・議督形で行う。諸葉中は集中して影話する。・「授業は諸等・議督形で行う。諸葉中は集中して影話する。・「授業は諸等・議督形で行う。諸葉中は集中して影話する。・「授業は諸等・議督形で行う。諸葉中は集中して影話する。・「授業は諸等・議督所で行う。諸葉中は集中して影話する。・「授業は諸等・議督所で行う。諸葉中は集中して影話する。・「授業は諸等・議督所で行う。諸葉中は集中して影話する。」「財産活動」「訪は日本 と呼吸を選挙していると選挙・「4000年間」と呼吸を受ける。合計点の60%、小ラストの違立を検討できるしたが、対して動きを表現しています。との中間試験・2 回の中間試験・2 回の中間試験・2 にあたの60%、小ラストの違法を表がったが、対していましていませます。 学生れの4回の試験・2 に対していましていませます。 学生れの4回の試験・2 に対していましていましていましていましていましていましていましていましていましていま	評価項目3	3		文学の持つ素晴らしさや学ぶ意義 について十分に理解することができる.	文学の持つ素晴らについて理解する	らしさや学ぶ意義 らことができる.	文学の持つ素晴らしさや学ぶ意義 について理解することができない ・		
展要 本科目は、高等専門学校の国語の基礎能力を「現代义・表現」の参野を中心に身につけさせる。具体的には、第1学年の学生として中学校主として中学校主との学的という。 の学生として中学校主での学習の確認を含めながら、高事生、そして現代に生きる日本人として必要な近代、現代文学の基礎知識の獲得と、試験力の自、及び約権な表現能力を養うことを目標にする。 ・ すべての内容は学園 教育知道自居 (A)の (発野) および (C) の (発表) に対応する。 ・ 「授業は基本・演習形式で行う。講本中は集中して思議する。) 「授業計画」における各場の「別連自民」はこの授業で習得する「知趣・能力」に相当するものとする。 <別建日標の評価方法と基準) ・ 下記録計画 「部記を持つ」の理解している場合、2 回の中間試験と2 回の中間試験とかテスト・提出課題・口語表等で世間し、目標の速度度を評価する。名到建日銀に関する重めは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の速度を保証できるとハルの試験を表す。 <学業成構の評価方法と基準) 「必要に関することのとして評価できる場合がある。 (日本の連成を保証できる) レート提出を2 0%と 収益制度である。(日本の連成を保証できる) レート提出を2 0%と 収益制度・10%の時期できる。例如・学年末の4回の試験の平均点する60%、小学を表現を明めらからの結果できる。(日本の主義を行うない、但し、習際低に応じて実施者を探す場合がある。 (日本の連絡を行うない、但し、習際低に応じて実施者を探す場合がある。 (日本の主義を行うない、但し、智様に応じているに対しを報酬を得する) により、新知中間、前期末・後期中間・学年末の4回の試験、課意、(本の主意を表現を明さまる) (表現を明さまる) (表現を関する) には、前期中間、前期未・後期中間・学年末の4回の試験、課題を表現である。(レイボート等) ・ 理解をおけるために、関時する日本の主義を経りである。(レイボート等) ・ 理解をおけるために、関時する日本の主義を経りである。(レイボート等) ・ 理解を対けるために、関時する国語は「日本文学、言語表現上)1、文学権は、日本の主義を経り、1、1回の差別では、日本の主義を行ういとである。(ロボート等) ・ 理解を対けるために、関語で実施者の国語・1 日本に表現を行うないと、また、観望によった場では、日本の主義を経りである。(ロボート等) ・ 理解を対しるい目に対していることが、できる。(ロギールの主義を対している) 第2回(P・47~P・55)第6回(P・61~P・69)第7回(P・71~P・83)第8回(P・85~P・91)			目との関	『					
原要 の学生として中学校までの学習の復習を含めながら、高専生、そして現代に生きる日本人として必要な近代、現代文学 の最較加速の獲得と、影解力の回上、及び砂確な変更限力を登っことを目標にする。 ・ すべての内容は学習・教育到達目標(A)の (規野) および (C) の (発表) に対応する。 ・ 投稿は落美、海部形で行う。 議典市は集中して聴語する。 ・ 「投稿試養、海部形で行う。 法典市は集中して問題を、2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト・提出課題・口間で達成を確認できるレベルの試験を表す。9期は目的 79連目標 1 つを根理した問題を、2回の中間試験・2 回の定期試験と小テスト・提出課題・口間で達成を確認できるレベルの試験を表す。9期中間・	教育方法	去等	1						
授業の進め方・方法 ・ 授業は講義・満習形式で行う。講義中は集中して戦闘する。 ・ 授業計画にあける各週の一到短見得」はつりを納確した問題を、2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト・提出課題・口頭表等で出類し、目標の違成度を評価する。各到達目標に関する重かは成立均等とする。合計点の60%の時点で、目標の違成度を設定する。合計点の60%の時点で、目標の違成度を設定する。合計点の60%の時点で、目標の2年業成時の6億万法および予価証券・前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点を60%、小テストにより、学業成績で60点にの1で課金では10円間が、10円に対して、10円間が、10	概要		の学生と	として中学校までの学習の復習を含めな	がら、高専生、そし	ノて現代に生きる	日本人として必要な近代、現代文学		
下記だ業計画の「到達目標」1~19を網羅した問題を、2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト、提出課題・日間の違放を確認できるレベルの試験を課す。 の違放を確認できるレベルの試験を課す。 (学華成協の評価が活みはび評価を実う前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点を60%、小テストの結果を20%、課題・ノート提出を20%として評価する。原則として前期中間・前期末・後期中間・学年末成款とも、再成験を行わない。但し、置数限に応じて課題を含ます場合がある。 く単位修得要件と与えられた課題レポート等をすべて提出し、前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験、課・パテストにより、学療結構でものは以上を取得すること。 ・ では、学校には、100 に以上を取得すること。 ・ では、中での文章程度の国語の別議かるとのに以上を取得すること。 ・ では、中学の文章程度の国語の別議かるとを力を力をしていていることが必要である。 ・ 中学の文章程度の国語の別議が立たを力を力では、担いましたら直ちに質問すること。また、課題に関係を行り出すること。なお、本教科は後に学習する国語II、日本文学、言語表現学I・II、文学概論「1・IIの基礎になる科目である。 漢字テストの恋い日はスピーチを実施する。	授業の進め	め方・方法	・授業に	は講義・演習形式で行う。講義中は集中	して聴講する。				
□ アクティブラーニング □ ICT 利用 □ 遠隔授業対応 □ 実務経験のある教員による授 □ 変集計画 □ 授業内容 □ 週ごとの到達目標 □ 1. 国語を学ぶ意義について理解している。 2. スピーチや討論、ディベートなどを行い、自分の 見を公の言葉で表現することができる。 (コミュニケーション能力の養成) 3. 学習したことを踏まえ、相手に説得力をもって自の言いたいことを伝える感想文・小論文等を書くことができる。 (文章力の養成) 4. 短歌や詩、シナリオや映像作品などを創作するこにより、自らの心情を作品として表現することができる。 (創作力・掲像力の養成) 5. 「常用漢字アルファ」に基づき、漢字小テストを間8回実施し、社会人として必要な漢字・語彙力を習得している。(漢字・語彙力の養成) 6. 国語表現における常識・規則を理解している。 上記1~6 と同じ、ア・評論の今日的な表現に使われる漢字・語句につして、正確な読み書きと用法を習得している。 9. 評論について、作者の意図を理解することができる。 10. 評論について、作者の意図を理解することができる。 10. 評論について、作者の意図を理解し、論理の展開を把握することができる。 10. 評論について、作者の意図を理解し、論理の展開を把握することができる。 10. 評論について、作者の意図を理解し、論理の展開を把握することができる。 10. 評論について、各段落、および全体の要旨についてまとめることができる。	注意点		くのもく、く中く理くは礎漢漢(学結に単小あ学レ解備期に字字P.4 業果再位テら校ポを考限なテテイ・カランのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、これでは、これでは、というには、これでは、というには、これでは、というには、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	議の評価方法および評価基準>前期中間と20%、課題・ノート提出を20%と試験を行わない。但し、習熟度に応じて終事性>与えられた課題レポート等をない。とは野要性>与えられた課題レポート等をない。との要求される基礎知識の範囲>平業程度の国語の知識および能力を身に・ト等> は受業中は学習に集中し、内容に対して利益でで提出すること。なお、本教科は後のおり目である。ストのない日はスピーチを実施する。ストのない田:第1回(P.5~P.13)第2回~P.55)第6回(P.61~P.69)第7回(して評価する。原見 課題等を課す場合だ すべて提出し、前期 得すること。 つけていることが必 出させる。また夏其 責極的に取り組むこ に学習する国語 II、 (P.15~P.23) 第:	別として前期中間 がある。 中間・前期末・紅 多要である。 別休業中の宿題と と。疑問が生じた 日本文学、言語 3回(P.25~P.33	・前期末・後期中間・学年末試験と 後期中間・学年末の4回の試験、課題 して、外部コンクールに応募する。 たら直ちに質問すること。また、課題 表現学Ⅰ・Ⅱ、文学概論Ⅰ・Ⅱの基 3)第4回(P.35~P.45)第5回		
授業計画	授業の原	属性・履修	8上の区分)					
週 授業内容 週ごとの到達目標	□ アクテ	・イブラーニ	ング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業		
週 授業内容 週ごとの到達目標	授業計画	 []							
1週 本授業の概容および学習内容の説明			週	授業内容	j	週ごとの到達目標	======================================		
7. 評論の今日的な表現に使われる漢字・語句について、正確な読み書きと用法を習得している。 2週 評論 水の東西(山崎正和)① 8. 評論のもつ表現上の特色を理解することができる。 9. 評論について、作者の意図を理解し、論理の展開を把握することができる。 10. 評論について、各段落、および全体の要旨についてまとめることができる。	前期	1stQ	1週	本授業の概容および学習内容の説明		2. スピーチや討論、ディベートなどを行い、自分見を公の言葉で表現することができる。(コミュニーション能力の養成) 3. 学習したことを踏まえ、相手に説得力をもっての言いたいことを伝える感想文・小論文等を書くこができる。(文章力の養成) 4. 短歌や詩、シナリオや映像作品などを創作するにより、自らの心情を作品として表現することがでる。(創作力・想像力の養成) 5. 「常用漢字アルファ」に基づき、漢字小テスト間8回実施し、社会人として必要な漢字・語彙力を得している。(漢字・語彙力の養成)			
			2週	評論 水の東西 (山崎正和) ①	= : :	上記1~6 と同じ7. 評論の今日的て、正確な読み書8. 評論のもついて8. 評論についてを把握することが10. 評論についてを把握することが10. 評論について	日的な表現に使われる漢字・語句につい		
			3週	 評論 水の東西(山崎正和)②					

		4週			上記1~6、上記7~10	ν ⊟ι"
		5週	評論 水の東西(山崎] 評論 水の東西(山崎]		上記1~6、上記7~10	·
		6週	評論・新聞記事など	<u> </u>	上記1~6、上記7~10	_,
		7週	評論・新聞記事など		上記1~6、上記7~10	
		8週	前期中間試験		これまで学習した内容を	·
		9週	前期中間試験の反省小説の伊豆の踊り子(川	端康成)①	上記1~6と同じ。 11. 小説の文学的な表現 て、正確な読み書きと用 12. 小説のあらすじを把 を理解することができる。 13. 小説について、終賞	記に使われる漢字・語句につい 法を習得している。 握し、登場人物の心情・行動 能力を養い、自分の感想を文 る。 史的知識を身につけ、作品が
	2ndQ	10週		端康成) ②	上記1~6、上記11~142	
		11週	小説 伊豆の踊り子(川		上記1~6、上記11~14	·
		12週	小説 伊豆の踊り子 (川		上記1~6、上記11~14	·
		13週	小説 伊豆の踊り子(川		上記1~6、上記11~14台	
		14週	表現・読書体験記を書く		上記1~6、上記11~14台	•
		15週	表現 エッセイを書く	`	上記1~6、上記11~14台	
		16週	200 = 2 = 1 = 1			
		1週	前期末試験の反省 短歌・俳句①		て, 正確な読み書きと用 16. 詩歌について、作者 把握することができる。 17. 詩歌について、鑑賞 章にまとめることができ	の意図を理解し、表現技巧を 能力を養い、自分の感想を文 る。 史的知識を身につけ、作品が
	2 10	2週	短歌・俳句②		上記1~6、上記15~18	∴同じ。
	3rdQ	3週	短歌・俳句③		上記1~6、上記15~18と	二同じ。
		4週	短歌・俳句④ 表現 短歌の創作		上記1~6、上記15~18	⊆同じ。
		5週	詩 サーカス(中原中也	2) ①	上記1~6、上記15~18と	≤同じ。
≪ Ħ□		6週	詩 サーカス(中原中也	3) ②	上記1~6、上記15~18と	≤同じ。
後期		7週	詩 サーカス (中原中也 表現 詩の創作	3) 3	上記1~6、上記15~18と	≤同じ。
		8週	後期中間試験		これまで学習した内容を	説明することができる。
		9週	後期中間試験の反省 小説 羅生門(芥川龍之	2介) ①	上記1~6、上記11~14と	≤同じ。
		10週	小説 羅生門(芥川龍之	2介)②	上記1~6、上記11~14と	≤同じ。
		11週	小説 羅生門(芥川龍之	2介) ③	上記1~6、上記11~14と	二同じ。
	4thQ	12週	小説 羅生門(芥川龍之	2介) ④	上記1~6、上記11~14と	:同じ。
	TuiQ	13週	小説 羅生門(芥川龍之		上記1~6、上記11~14と	:同じ。
		14週	小説 羅生門 (芥川龍之	2介)⑥	上記1~6、上記11~14년	·
		15週	小説 羅生門(芥川龍之 年間授業のまとめ	2介) ⑦	上記1~6、上記11~14 d 19. 年間授業内容の意義	
		16週		-		
	コアカリ	1	の学習内容と到達目標			
分類	_	分野	学習内容 学習	内容の到達目標		到達レベル 授業週
評価割金	合			T		_
DI IMIDI		4_=	験	課題・ノート提出	小テスト	合計
рт імідэ		証	时天			
総合評価	割合	部 60		20	20	100

鈴鹿工業高等専	門学校	開講年度	令和06年度(2	2024年度)	授業科目	保健体育
科目基礎情報						
<u> </u>	0009			科目区分	一般 / 必	修
170日 7 授業形態	授業			単位の種別と単位数		
開設学科	電気電子工学	1 8		対象学年	1	. 2
開設期	通年	1 न		週時間数	2	
			·+÷-¬-+² / 1 //e		2	
教科書/教材		ナツノアツノ局	校スポーツ(大修	::::::::::::::::::::::::::::::::::::::		
担当教員	宝来 毅					
健康な生活を営む知識 他と協調して積極的に記	・態度を育むこ	とができる.), 心身の調和的発	達を促すとともに, :	生涯を通じて遺	重動を楽しむことができる
ルーブリック				1		
	理	理想的な到達レ/	ベルの目安	標準的な到達レベル	レの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	官て力るり報性に月份	目身ででは、 ででで、 ででで、 は、 でで、 でで、 でで、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	て、して、 のら動が、 のののの一、にのので、 のののの一、にのので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、	ス自でこが、にの方と保でこが、にの方と保証しても関でこが、にの方と保証してきるに、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	ノ, 自らのきとう。 はて、自うのをとう。 はて、まで、まで、まで、まで、よび、よび、よび、よいで、はいいで、はいで、はいいで、はいいで、はいいで、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが	自身の立場に照らし、自らの考え で責任を持って必要な行動をとる ことができない、そして、リーが 一がとるべき行動や役割を認識際 には情報収集やチーム内での相談 の必要性を理解しながら、適切な 方向性に沿った協調行動を促すこ とができない。
評価項目 2	ご語重, , こ, て、の重係で	マ・戦か と この それ で で で で で で で で で で で で で で で で で で	で果らた。 一大学のでは、 一大学のでは、 一大学のでは、 一大学のでは、 一大学のでは、 一大学のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 でいます。 でいまする。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいまする。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいまする。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいまする。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいまする。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいまする。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいまする。 でいます。 でいまな。 でいまな。 でいまな。 でいまな。 でいまる。 でいまな。	で、見しれて、 一、見しれて、 一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	意 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	スポーツを通じて、手・カマ鬼を通じ、大・共同することの意義・効自らで、
評価項目3	フにお行ら伝え	スポーツを通じて,目標の実現に向けて計画を立て,日常の生活における時間管理,健康管理などを行いながら,その実現に向けて自らを律した行動の応用ができる.保健を通じて,日常の生活における時間管理,健康管理などの応用		スポーツを通りです。 スポーツを通りです。 では、大のでは、大いでは、大いでは、大いでは、大いでは、大いでは、大いでは、大いでは、大い	日常の生活に 建康管理などを 『現に向けて自 できる.	向けて計画を立て、日常の生活に おける時間管理、健康管理などを 行いながら、その実現に向けて自 らを律して行動ができない。
 学科の到達目標項E	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ができる		1.0 2201		
教育方法等	Γ					
概要	を自覚し, チ を高め, 心身 保健 「保健」の授	ームの力量に応 の健全な発達を 業では,現代社	じた練習やゲーム 促す. 会の健康, 生涯を	ができるようにする.	また,実践す 生活における傾	国競技において協調性や個人の役割でることによって活動的で豊かな生活 は原についての理解を深め、健康の保
授業の進め方・方法	授業は保健(「授業計画」	座学)と体育実 における各週の	技(実技)を同時 「到達目標」はこ	意欲>に相当する 間内に行う. の授業で到達する「タ	知識・能力」 (こ	
注意点	90大きの単立に 90大きの 90	テストにより評体育館使用や,件> 法により60点要求される基礎)バスケットボ で学んだ保健の どン	技を行う. 保健は 価を行う. 評価は 悪天候に伴う授業 以上取得すること 知識の範囲 > ニール, (後期) 卓 い内容及び一般常識	:, 保健30%及び体育 実施の可不可により,	実技70%を合注 実技の種目内 のルールを事前	を用いて行う)により評価を行い わせて総合的に評価する。ただし、学 19客や授業形態が変更になる可能性が 対に学習し、覚えておくこと。 ます場合がある。
授業の属性・履修」		= =, >				
メポツカエ 仮じ_		T TOT THE				 □ 実務経験のある教員による授業
ファクニュブニ ート						
アクティブラーニン	<i>''</i>	ICT 利用		□遠隔授業対応		大物柱線のめる教員による技
	<i>''</i>	』ICI 利用		□		□ 天扮社駅のめる教員による技
〕 <i>アクティブラーニン</i> 受業計画	<i>'</i>	J ICI 利用		□ 逯뼴技業刈心		□ 天扮社談のの公教員による技

				T
		1週	実技:ガイダンス (体操服の着用マナー,授業の集合について,体育館シューズの記名) 保健:運動・休養と健康	実技:体育実技の授業の流れについて知る.体操服・体育館シューズを使用する際のルールを知る 前期の 授業の流れについて理解できる 保健:健康からみた運動の意義について正しく理解す ることができる
		2週	スポーツテスト	協力し合って基本データを計測できる
		3週	スポーツテスト	協力し合って基本データを計測できる
		4週	スポーツテスト	協力し合って基本データを計測できる
	1stQ	5週	実技:バスケットボール (ルール,基本動作,ドリブル) 保健:交通事故について	実技:ルールを理解することができる.ボールを正確にドリブルすることができる 保健:交通事故が身近で危険である事を知り,自転車通学に対する安全意識を向上できる
		6週	実技: バスケットボール(ドリブル, パス, フリースロー) 保健: 応急手当について(1)	実技:ボールを正確にドリブルすることができる. フリースローを打つことができる. 相手に正確にパスができる 保健: 応急手当についての知識・方法を正しく理解することができる
		7週	実技:バスケットボール(ドリブル,レイアップ) 保健:応急手当について(2)	実技:ボールを正確にドリブルすることができる.レイアップ動作ができる. 保健: 応急手当についての知識・方法を正しく理解することができる
前期		8週	実技:バスケットボール (攻守の動き) 保健:熱中症について	実技: これまでにやってきた内容を発揮できる 保健: 熱中症についての知識・対処方法を正しく理解 することができる
		9週	実技:バスケットボール(練習試合) 保健:健康の考え方と成り立ち・私たちの	実技:取り組んできた内容が試合で出せる 保健:「健康」とは何か,ということについて,自分なりの考えを持ち,心身共に健康に過ごすための知識 を身につけることができる.また,健康に過ごすため に自分ではどのよ うな行動をするべきか考える事ができる.
		10週	実技:バスケットボール(リーグ試合) 保健:生活習慣病とその予防	実技:試合の運営ができる 保健:生活習慣病に対する正しい知識を持ち,日常生活において,食事,運動,休養などの面から生活習慣病の予防に役立つ知識を身につけることができる
	2ndQ	11週	実技:バスケットボール(リーグ試合) 保健:食事と健康	実技:試合の運営ができる 保健:健康的な食生活の重要性と意義について理解で きる.
		12週	実技:バスケットボール (リーグ試合) 保健:実施しない	実技:試合の運営ができる
		13週	実技 : バスケットボール(技術テスト) 保健 : 実施しない	実技:試合の運営ができる
		14週	実技:バスケットボール(技術テスト・リーグ) 保健:実施しない	実技: これまで練習してきたバスケットボールに関する動きを表現する事ができる
		15週 16週	まとめ	前期の反省・まとめを行う
		1週	体育祭の種目練習	実技:協力して運営することができる
		2週	体育祭に振替	実技:積極的に参加することができる
		3週	実技:卓球(基本の打ち方1)保健:喫煙と健康	実技:ラケットの持ち方・打ち方を理解できる 保健:喫煙が健康に及ぼす影響について正しく理解す ることができる
		4週	実技:卓球 (基本の打ち方2) 保健:飲酒と健康	実技:サーブ動作ができるようになる 保健:飲酒が健康に及ぼす影響について正しく理解することができる
	3rdQ	5週	実技:卓球(基本の打ち方3) 保健:薬物乱用と健康	実技:継続してラリーをすることができる 保健:薬物乱用が健康に及ぼす影響について正しく理 解することができる
	3.44	6週	実技:卓球(基本の打ち方4) 保健:精神疾患の特徴と予防	実技:サーブからラリーまでをスムーズに行う事ができる 保健:精神疾患に関する特徴を把握し、それに対する 予防について正しく理解することができる
後期		7週	実技:卓球(基本の打ち方5) 保健:現代の感染症とその予防	実技:様々な打ち方を理解できる 保健:薬物乱用が健康に及ぼす影響について正しく理 解することができる
		8週	実技:卓球(練習及び練習試合) 保健:欲求・心身相関・ストレス	実技:卓球の基本打ちが理解できる 試合の流れが理解できる 保健:欲求・心身相関・ストレスについて正しく理解し、うまくコントロールする方法を探究することができる
		9週	実技:持久走 保健:実施しない	実技: 2000m走を走りきることができる
		10週	実技:卓球(試合) 保健:実施しない	実技:リーグ戦を行い,結果をまとめることができる
	4+50	11週	実技:卓球(試合) 保健:実施しない	実技:リーグ戦を行い,結果をまとめることができる
	4thQ	12週	実技:卓球(試合) 保健:実施しない	実技:リーグ戦を行い,結果をまとめることができる
		13週	実技:卓球(試合) 保健:実施しない	実技:リーグ戦を行い,結果をまとめることができる
		14週	実技:卓球(試合) 保健:実施しない	実技:リーグ戦を行い,結果をまとめることができる

	15週	まとめ			1年間の反省・ 欲を高める	まとめを行い,	次年度の体	育に対する意
	16週							
モデルコア	カリキュラムの)学習内容と到達	鞋目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目	目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計	t
総合評価割合	70	0	0	30	0	0	100)
配点	70	0	0	30	0	0	100)

	鹿工業高 領		₹ │ 開講年度 │令和06年度 (?	2024年度) 1 -	授業科目「物	勿理 I
科目基	<u>。 礎情報</u>	3 (31 3 3 12	(1000)			,,, <u> </u>
科目番号		0021		科目区分	一般 / 必修	5
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位:	2
開設学科	1		子工学科	対象学年	1	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/勃	教材	教科書 出版) ,	: 「物理基礎」植松恒夫・酒井啓司・下 「センサー総合物理」(啓林館)	田止編(啓林館),参	芳書: Ⅰノオ□]ーアップドリル物理基礎」(数研
担当教員	Į	丹波 之	宏			
到達目	標					
力学(及	び熱力学の	初歩)に関い	重する物理量を取り扱って必要な計算が	できる.		
ルーブ	リック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの		未到達レベルの目安
評価項目	1		物体の運動に関する応用的な問題 を解くことができる.	物体の運動に関する基を解くことができる.	物体の運動に関する基本的な問題を解くことができない.	
評価項目	12		仕事や熱とエネルギーに関する応 用的な問題を解くことができる.	仕事や熱とエネルギーに関する基 本的な問題を解くことができない		
学的の	刘安口捶.	1百日 トの問		本的な問題を解くこと		ı
<u>子科の</u> 教育方		項目との関	ह्यांकर			
<u> </u>	<u> </u>	₩m TED (は,自然の仕組みを調べる学問の基礎と			プロサルクロのフェナンボンナク
概要		である. 数式を値 くなれる 具体的	、中学校の理科では、自然の仕組みを言 さい計算を通して行うという物理学本来 て欲しい。 りには、物理学の中でも、基礎となるカ レギー」等を学ぶ。	葉の説明を通して理解しの方法を学ぶ. この方法	してきた. <i>この</i> 去は, 専門科目)授業では,自然を理解するときに 目の理解の方法とも一致するので早
授業の進	並め方・方法	・前後期・「授業	朋共に第1週〜第15週までの内容はす 詳計画」における各週の「到達目標」は	べて, 学習・教育到達E この授業で習得する「9	目標(B)<基 知識・能力」に	基礎>に相当する. ニ相当するものとする.
		20%ま は60点 く単位(くあらポー く備 問題 ある. い エ・IV]	多得条件>学業成績で60点以上を取得すかじめ要求される基礎知識の範囲>中学ート等>演習課題を課す。 >勉強の仕方:基本的に、教科書に従っ 5集の習った範囲の例題、問題等を解い すぐ答えを見ないで、自分の力で考え解 の基礎となる科目である。	学業成績の総合評価とであること. 数学の知識は十分に身にて授業は行われる. 授業でで理解を確実にすると、いてみる力を養うように	する. なお再記 こ付けた上で監 業が終わったら よい. 物理は,	は験を経て得る各試験の評価の最大値 記むこと。 ら,自宅で,教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 本科目は後に学習する「物理Ⅱ・
」 アク	ティブラー	ニンク	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応		
	·					□ 実務経験のある教員による授業
以木口	<u> </u>					□ 実務経験のある教員による授美
		调	授業内容	调ご	との到達目標	□ 実務経験のある教員による授業
		週 1週	授業内容 授業内容の説明,物理で使う数値		との到達目標 数値の基礎的	□ 実務経験のある教員による授業
				1.		な知識を有している.
		1週	授業内容の説明,物理で使う数値	1.	数値の基礎的対速度に関する	な知識を有している.
	1stO	1週 2週 3週 4週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動	1. 2. 上記	数値の基礎的が 速度に関する 2	よ知識を有している.
	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動	1. 2. 上記 3. 九	数値の基礎的が 速度に関する 2 加速度を理解し 3	な知識を有している. 計算ができる. ,, 関連した問題を解ける.
	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下)	1. 2. 上記 3. <i>t</i> 上記 4. §	数値の基礎的が 速度に関する。 2 加速度を理解し 3 客体の運動を記	な知識を有している. 計算ができる. ,, 関連した問題を解ける.
	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射)	1. 2. 上記 3. <i>t</i> 上記 4. §	数値の基礎的が 速度に関する記 2 加速度を理解し 3 客体の運動を記 4	は知識を有している. 計算ができる. ノ,関連した問題を解ける. 已述できる.
新祖 中	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験	1. 2. 上記 3. が 上記 4. う	数値の基礎的が 速度に関する記 2 加速度を理解し 3 客体の運動を記 4 までの学習内容	は知識を有している. 計算ができる.
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力	1. 2. 上記 3. 九 上記 4. § 上記 これ 5. 5	数値の基礎的が 速度に関する記 2 加速度を理解し 3 B体の運動を記 4 までの学習内容 けについて理解	は知識を有している. 計算ができる. ノ,関連した問題を解ける. 已述できる.
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い	1. 2. 上記 3. 九 上記 4. 列 上記 これ 5. 元	数値の基礎的が 速度に関する。 2 加速度を理解し 3 各体の運動を記 4 までの学習内を かについて理解 5	は知識を有している. 計算ができる.
前期	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用	1. 2. 上記 3. が 上記 4. が 上記 これ 5. か 上記	数値の基礎的が 速度に関する。 2 加速度を理解し 3 客体の運動を記 4 までの学習内容 かについて理解 5	は知識を有している. 計算ができる. , 関連した問題を解ける. 已述できる. 容について理解している. 遅し、記述できる.
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	授業内容の説明, 物理で使う数値 速さ, 速度, 等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度, 等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用 圧力と浮力	1. 2. 上記 3. が 上記 4. ジ 上記 これ 5. ジ 上記	数値の基礎的が速度に関する。 2 加速度を理解し 3 8 A B B B B B B B B B B B B B B B B B B	は知識を有している. 計算ができる. , 関連した問題を解ける.
前期	1stQ 2ndQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用	1. 2. 上記 3. が 上記 4. ジ 上記 これ 5. ジ 上記	数値の基礎的が速度に関する。 2 加速度を理解し 3 8 A B B B B B B B B B B B B B B B B B B	は知識を有している. 計算ができる. , 関連した問題を解ける.
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用 圧力と浮力 慣性の法則、運動の法則、運動の三法 単位と次元、運動方程式の応用その1	1. 2. 上記 3. 加 上記 4. が 上記 これ 5. グ 上記 上記 4. が 上記 これ 5. グ 上記	数値の基礎的が速度に関する。 2 加速度を理解し 3 8体の運動を記 4 までの学習内容 力について理解 5 5 様々な力につい	は知識を有している. 計算ができる. , 関連した問題を解ける.
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用 圧力と浮力 慣性の法則、運動の法則、運動の三法	1. 2. 上記 3. 加 上記 4. が 上記 これ 5. か 上記 上記 点別、重さと質量 7. ご る. 材	数値の基礎的が速度に関する。 2 加速度を理解し 3 8体の運動を記 4 までの学習内容 力について理解 5 5 様々な力につい	は知識を有している. 計算ができる. , 関連した問題を解ける.
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用 圧力と浮力 慣性の法則、運動の法則、運動の三法 単位と次元、運動方程式の応用その1 運動方程式の応用その2	1. 2. 上記 3. 加 上記 4. ジ 上記 これ 5. 加 上記 上記 上記 上記 上記 上記	数値の基礎的が速度に関する。 2 加速度を理解し 3 8体の運動を記 4 までの学習内容。 力について理解 5 5 5 集々な力につい 運動の法則を理	は知識を有している. 計算ができる. , 関連した問題を解ける.
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用 圧力と浮力 慣性の法則、運動の法則、運動の三法 単位と次元、運動方程式の応用その1 運動方程式の応用その2	1. 2. 上記 3. 九 上記 4. § 上記 これ 5. 之 上記 上記 上記 上記 上記 上記	数値の基礎的が速度に関する。 2 加速度を理解し 3 8体の運動を記 4 までの学習内容 りについて理解 5 5 様々な力につい 重動の法則を理	は知識を有している. 計算ができる. , 関連した問題を解ける.
前期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 15週 16週 15週 2週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用 圧力と浮力 慣性の法則、運動の法則、運動の三法 単位と次元、運動方程式の応用その1 運動方程式の応用その2 摩擦力(斜面方向)	1. 2. 上記 3. 九 上記 4. が 上記 これ 5. 之 上記 上記 上記 上記 上記 上記	数値の基礎的が速度に関する。 2 加速度を理解し 3 8体の運動を記 4 までの学習内容 りについて理解 5 5 様々な力につい 重動の法則を理 7 7	は知識を有している. 計算ができる. , 関連した問題を解ける.
	2ndQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 15週 16週 16週 2週 3週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用 圧力と浮力 慣性の法則、運動の法則、運動の三法 単位と次元、運動方程式の応用その1 運動方程式の応用その2 摩擦力(斜面方向) 放物運動、空気抵抗がはたらく落下運	1. 2. 上記 3. 九 上記 4. が 上記 これ 5. 元 上記 上記 上記 上記 上記 上記 上記	数値の基礎的が速度に関する。 2 加速度を理解し 3 8体の運動を記 4 までの学習内容 りについて理解 5 5 様々な力につい 運動の法則を理 7 7 6 6 6	は知識を有している。 計算ができる。 が関連した問題を解ける。 をはできる。 なについて理解している。 ない、記述できる。 いて理解し、関連した問題を解ける。 には、関連した問題を解ける。
		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 15週 16週 16週 13週 4週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用 圧力と浮力 慣性の法則、運動の法則、運動の三法 単位と次元、運動方程式の応用その1 運動方程式の応用その2 摩擦力(斜面方向) 放物運動、空気抵抗がはたらく落下運 仕事	1. 2. 上記 3. 加 上記 4. が 上記 これ 5. が 上記 上記 6. 材 月記 上記 上記 上記 上記 上記 上記 上記 上記 上記 も. が る. が と記 上記	数値の基礎的が速度に関する。 2 加速度を理解し 3 8体の運動を記 4 までの学習内容 かについて理解 5 5 最々な力につい 重動の法則を理 7 7 6 6 6 6 6	は知識を有している. 計算ができる. , 関連した問題を解ける.
前期 後期	2ndQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 15週 16週 16週 2週 3週	授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用 圧力と浮力 慣性の法則、運動の法則、運動の三法 単位と次元、運動方程式の応用その1 運動方程式の応用その2 摩擦力(斜面方向) 放物運動、空気抵抗がはたらく落下運	1. 2. 上記 3. 九 上記 4. が 上記 これ 5. 元 上記 上記 上記 上記 上記 上記 上記	数値の基礎的が速度に関する。 2 加速度を理解し 3 8 体の運動を記 4 までの学習内容。 5 5 様々な力について理解 7 7 7 6 6 6 6 七事とエネルキ 8	は知識を有している. 計算ができる. , 関連した問題を解ける. 登述できる. 容について理解している. なし, 記述できる. いて理解し, 関連した問題を解ける と解し, 運動方程式で運動を記述で

		7週		力学的	カエネルギー	 -保存の法則その 1		9. 力学的	Lネルギー保存の	法則を理解し	, , 関連した問
						MI ONDER COST		題を解ける		7/	71
		8週			中間試験	// たの注則えのこ			てからの学習内容	らい (埋)	¥している
		9週 10i		保存力	カと力学的エ	-保存の法則その 2 エネルギーの保存、セ	保存力以外の力力	<u>上記9</u> プレ記9			
		11ì		仕事を熱と温	をする場合 <u></u> 温度				 度を理解し,関連	 車した問題を	 解ける.
_	łthQ	12ì		熱量				上記10	,		
	iciiQ	13ì	围	熱の和	 利用			上記10			
		14ì	围	気体の	の法則と状態	方程式		11. 気体の	様々な状態変化に	こ関連した問	題を解ける.
		15ì	围	気体の	の状態変化と	:熱・仕事		上記11			
		16ì	围								
モデルコ	アカリ=	キユ:	ラムの	学習	内容と到達	主目標					_
分類	1		分野		学習内容	学習内容の到達目	1標			到達レベル	授業週
						速度と加速度の概				3	
						平均の速度、平均の				3	
						直線及び平面運動 合成・分解及び村	かにおいて、速度 目対速度に関する	をベクトルとし 計算ができる。	ノて捉え、速度の 	3	
						等加速度直線運動する計算ができる		、物体の変位、	時間、速度に関	3	
						平面内を移動するとができる。		ででは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、こ	変化として扱うこ	3	
						物体の変位、速度る。	度、加速度を微分	・積分を用いて	て相互に計算でき	3	
						自由落下及び鉛値ができる。	直投射した物体の)変位、速度、時	詩間に関する計算	3	
						水平投射及び斜方ができる。	5投射した物体の)変位、速度、時	詩間に関する計算	3	
							かじきる。 物体に作用する力を図示できる。			3	
						力の合成と分解ができる。		3			
					質点にはたらく力のつりあいに関する計算ができる。			3			
						重力、弾性力、抗力、張力の概念を理解し、それぞれの力に関す		3			
						る計算ができる。	, 				
						圧力、浮力につい 運動の三法則につ		•		3	
						運動の三法則に - 運動方程式を用い		-	 *にはたらく力な	-	
						どを求めることが静止摩擦力がはた		この力のつりあし	いについて説明で	-	
基礎的能力	自然科学	学	物理		物理	きる。 最大摩擦力に関す				3	
						動摩擦力に関する) •		3	
						仕事と仕事率に関				3	
						物体の運動エネル				3	
						重力による位置コ			 3.	3	
						弾性力による位置	<u> </u>	する計算ができ	きる。	3	
						力学的エネルギー	保存の法則につ	いて説明でき、	その法則を用い	3	
						て、物体の速度や				3	+
						原子や分子の熱道時間の推移ととも					+
						を説明できる。	フィン・ ボベンパグ重角で	- いってポードル	WILE POLC	3	
						物体の熱容量とは				3	1
						熱量保存の法則を		量、比熱及び熱平	P衡後の物体の温	3	
						度を求めることが	レの法則や理想気		式を用いて、気体	3	
						の圧力、温度、体理想気体における	る分子の運動エネ				
						について説明でき 熱力学第一法則を	E用いて、気体の	状態変化(定称	責変化、定圧変化	ļ	
							多くの形態があり		ごきることを具体	ļ	
								ŧıギ▽≅∺□□▽▽÷¨	7	ļ	1
									٥.		+
京価割合	<u> </u>				I	熱機関の熱効率に	_ 9 る計算かく	ごさる。		3	1
计侧刮石	4-≘	酥金		=⊞1	 早百	相方歌傳	能度	☆圭	マの畑	△≡	+
総合証価割る											
							+-				
評価割合 総合評価割合 配点	試 含 80)		課 20 20)	エネルギーには参例を挙げて説明で 不可逆変化につい 熱機関の熱効率で 相互評価 0 0	ごきる。 Nて、具体例を挙	がて説明できる		3 3 3 100 100)

鈴鹿	王業高等	等專門学校	開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	ものづくり実習
科目基礎							
科目番号		0002			科目区分	専門 /	· 必修
授業形態		実験・実習	79 79		単位の種別と単位		
開設学科		電気電子コ			対象学年	1	
開設期		前期			週時間数	4	
教科書/教	·····································			成指導書,参考書			,電気電子工学あるいは機械加工に関
担当教員		西村 高志,					
到達目標	票						
に報告する	ることがで		者にとって必要な!	支能を理解して習行	得し, 目的とする部 [。]	材や製品を作製	とすることができ,それらについて適切
ルーブリ	<u> </u>				1		
評価項目1			学および機械加工の基礎を十分に 学および機械加		初歩的な実習を近学および機械加工解することができ	通じて電気電子 □の基礎を概ね きる.	理 学および機械加工の基礎を理解することができない.
評価項目2	2		実習で使用する正しく取り扱いことができる.	機器等を安全かつ , 実習を遂行する	実習で使用する様正しく取り扱い, 行することができ	実習の一部を	つ 実習で使用する機器等を安全かつ 遂 正しく取り扱い,実習を遂行する ことができない.
評価項目3	3		た知識について	内容および取得し , 適切にレポート することができる	実施した実習のたた知識について,	レポートにま	
学科の至	到達目標項	項目との関係	系				
教育方法	去等						
概要		電気電子」び機械加コ	学を専門とする 実習を中心とし	支術者にとって必要 て,実際に手を動力	要な基本技能につい [・] いしながらものづく	て習得すること りの大切さを知	: を目標とする. 電気電子工作実習およ]る.
授業の進む	め方・方法	・全ての内 ・電気電子 する.	7容は,学習・教育 ←工作実習を3グリ	育到達目標(B) < レープでローテーシ	基礎> <専門> に対 ション、機械加工実	対応する. 習を3グルーン	プローテーションにより、6週で実施
		160%の得	4点で目標の達成な	を確認する.			ポートの内容により評価する. 知識・食も評価の対象とする(態度). 満点の
	電性・履信	60%の保証を () () () () () () () () () (原で目標の達成? にいました。 では、59	を確認する. が評価基準 > 総合評価基準 > 総合評価基準 > 総合評価基準 > 記述で表述で表述で表述の範囲 > 中学について毎週レポージので、指定の作品当教職長の指示の表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表	価して100%(1 業成績で60点以上 の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服 安全帽 保護	00点)とし た取得するこ でる基礎的な知 でる. 担当教職	て評価する.レポートの未提出がひとこと.
授業の属		60%の成分では <学生のでは <ではいるでは <ではいるでは <ではいるでは <では、 ―の	昇点で目標の達成で の評価方法およで は場合には、59 g 場合にはポートを も数要求される基礎 など>各テーマは が提出まな実習を が提出まな実習で、 まざまあるのは、 まざれない場合は もれない場合は、	を確認する. が評価基準 > 総合評価基準 > 総合評価基準 > 総合評価基準 > 記述で表述で表述で表述の範囲 > 中学について毎週レポージので、指定の作品当教職長の指示の表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表	価して100%(1 業成績で60点以上 の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服 安全帽 保護	. 0 0 点)とし た取得するこ でる基礎的な知 たる. 担当教職 養メガネ, 作業 を守り, 真剣な 教科は後に学習	て評価する.レポートの未提出がひとこと. 識. 員の指示に従い,それぞれの締め切りま 靴の着用を義務づける。重大な怪我な。
	属性・履(ディブラー <u>:</u>	60%の成分では <学生のでは <ではいるでは <ではいるでは <ではいるでは <では、 ―の	帰点で目標の達成? の評価方法よで りでは、599 関告には、599 関サ>レポートを め要求さろるマにが 提出しなければが まざまな実習を行 にがあるので、1 があるので、1 があるもは、5 り基礎となる教料	を確認する. が評価基準 > 総合評価基準 > 総合評価基準 > 総合評価基準 > 記述で表述で表述で表述の範囲 > 中学について毎週レポージので、指定の作品当教職長の指示の表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表	価して100%(1 業成績で60点以上 の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 ご従い,厳格な規律 ご従い,厳格な規律	. 0 0 点)とし た取得するこ でる基礎的な知 たる. 担当教職 養メガネ, 作業 を守り, 真剣な 教科は後に学習	て評価する.レポートの未提出がひとてと. 識. 員の指示に従い,それぞれの締め切りる 動物の着用を義務づける.重大な怪我なる態度で受講しなければならない.このはする「電気電子工学実験」など主に実
授業の属	ティブラーニ	60%の成分では <学生のでは <ではいるでは <ではいるでは <ではいるでは <では、 ―の	帰点で目標の達成? の評価方法よで りでは、599 関告には、599 関サ>レポートを め要求さろるマにが 提出しなければが まざまな実習を行 にがあるので、1 があるので、1 があるもは、5 り基礎となる教料	を確認する. が評価基準 > 総合評価基準 > 総合評価基準 > 総合評価基準 > 記述で表述で表述で表述の範囲 > 中学について毎週レポージので、指定の作品当教職長の指示の表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表	価して100%(1 業成績で60点以上 の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 ご従い,厳格な規律 ご従い,厳格な規律	. 0 0 点)とし た取得するこ でる基礎的な知 たる. 担当教職 養メガネ, 作業 を守り, 真剣な 教科は後に学習	て評価する.レポートの未提出がひとてと. 識. 員の指示に従い,それぞれの締め切りる 動物の着用を義務づける.重大な怪我なる態度で受講しなければならない.このはする「電気電子工学実験」など主に実
授業の原	ティブラーニ	60%の作品では、	帰点で目標の達成? の評価方法よで りでは、599 関告には、599 関サ>レポートを め要求さろるマにが 提出しなければが まざまな実習を行 にがあるので、1 があるので、1 があるもは、5 り基礎となる教料	を確認する. が評価基準 > 総合評価基準 > 総合評価基準 > 総合評価基準 > 記述で表述で表述で表述の範囲 > 中学について毎週レポージので、指定の作品当教職長の指示の表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表	価して100%(1 業成績で60点以上 の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 ご従い,厳格な規律 ご従い,厳格な規律 ごがある.また,本動	. 0 0 点)とし た取得するこ でる基礎的な知 たる. 担当教職 養メガネ, 作業 を守り, 真剣な 教科は後に学習	て評価する.レポートの未提出がひとてと、 識. 員の指示に従い,それぞれの締め切りま 桃の着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.この はする「電気電子工学実験」など主に実 図 実務経験のある教員による授
授業の原	ティブラーニ	60%の (本学も (本学も (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学) (本学)	帰点で目標の達成なの評価方法およで、 は場合には、599で は場合には、599で は場合には、599で が表でするという。 はいるというでは、1 はいるというでは、1 はいるというでは、1 はいない場合は、1 はいない場合は、1 はいるというでは、1 はいない場合は、1 はいるというでは、1 はいるというでは、1 はいるというでは、1 はいない場合は、1 はいるというでは、1 はいるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるとい	を確認する。 を確認する。 終合評価基準 > 総合評 は以下とする。 は以下と提出し、学 を知識の範囲 > 中学 ついて毎週レポー ならない。 指定の作 担当教職長の指示し と である。	価して100%(1 業成績で60点以上 の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 ご従い,厳格な規律 ご従い,厳格な規律 ごがある.また,本動	. 00点)とした取得するこれを取得するこれを基礎的な知まる。担当教職を対え、作業を守り、真剣な教科は後に学習	て評価する.レポートの未提出がひとてと、 識. 員の指示に従い,それぞれの締め切りま 桃の着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.この はする「電気電子工学実験」など主に実 図 実務経験のある教員による授
授業の原	ティブラーニ	60%の (本学年) (帰点で目標の達成なの評価方法およて ・場合には、599を ・場合には、599を ・場合には、599を ・場合には、599を ・め要求さるテーマに がまざまるまするでは、 ・はであるので、する ・はであるのは、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	を確認する。 を確認する。 終合評価基準 > 総合評 にすべて提出し、学 を知識の範囲 > 中学 でいて毎週レポー よらない。 おらない。 も当教報であることである。	価して100%(1 業成績で60点以上 の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 ご従い,厳格な規律 ご従い,厳格な規律 ごがある.また,本動	. 00点)とした取得するこれを取得するこれを基礎的な知まる。担当教職を対え、作業を守り、真剣な教科は後に学習	て評価する.レポートの未提出がひとてと、 識. 員の指示に従い,それぞれの締め切りま 桃の着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.この はする「電気電子工学実験」など主に実 図 実務経験のある教員による授
授業の原	ティブラーニ	60%成れ ママー・	帰点で目標の達成で の評価方法からで 場合には、599 関件>レポートを め要求さとないれるマにが 提出しな実習を行 性がある場合は、 がはない場合では、 がはない場合では、 がはない場合では、 がはないよる。 はないるる。 はて、利用	を確認する。 を確認する。 終済には、 には、では、 には、では、 には、では、 には、では、 には、では、 には、では、 には、ののでは、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 に	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 ではい,厳格な規律である。また,本芸	. 00点)とした取得するこれを取得するこれを基礎的な知まる。担当教職を対え、作業を守り、真剣な教科は後に学習	て評価する.レポートの未提出がひとてと、 識. 員の指示に従い,それぞれの締め切りま 桃の着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.この はする「電気電子工学実験」など主に実 図 実務経験のある教員による授
授業の原	ティブラーニ	6 0 %成んで () の (帰点で目標の達成なの評価方法およで、 場合には、59。 場合には、59。 場合には、59。 と場合には、59。 は場合にはが、59。 は場合にはが、59。 はおきであるでは、50。 はおいなはとないが、まではないなる。 はないなるる教科 □ ICT 利用	を確認する。 を確認する。 終合語 は下で提出し、学る。 はいて提出し、学 を知識の毎週レポー はいではい。 はいではい。 はいではい。 はいではい。 はいではい。 はいののではい。 はいののではい。 はいののではい。 はいののではい。 はいののではい。 はいののではい。 はいののではい。 はいののではい。 はいののではい。 はいののではい。 はいのではいのではい。 はいのではいのではい。 はいのではいのではいのではい。 はいのではいのではいのではいのではいのではいのではいのではいのではいのではいので	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 ではい,厳格な規律である。また,本芸	. 00点)とした取得するこれを取得するこれを基礎的な知まる。担当教職を対え、作業を守り、真剣な教科は後に学習	て評価する.レポートの未提出がひとてと、 識. 員の指示に従い,それぞれの締め切りま 桃の着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.この はする「電気電子工学実験」など主に実 図 実務経験のある教員による授
授業の原	ティブラーニ	6 0 % 成 6 % で 4 % で 4 % で 4 % で 4 % で 4 % で 4 % で 5 % で 5 % で 6 % で 6 % で 6 % で 7 % で 7 % で 7 % で 9	帰点で目標の達成など、 は場合には、59% 場合には、59% 場合には、59% は場合には、59% がおせいした。 は要要するなどとしない。 はどとしない。 はどがない場合です。 はではない。 はない。 はない。 はなどなるる教科 はて、利用 日で、日で、日本のでは、 はない。 はな。	を確認する。 を確認する。 ド評価基準する。 にする。 はいて現出出し、中では にはいていいでででででである。 にはいていいでででである。 にはいていいでででである。 というのででである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 ではい,厳格な規律である。また,本芸	200点) とした取得するこれでは ではいるのでは、 ではいるでは、 ではなでは、 ではなでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	て評価する.レポートの未提出がひとてと、 識. 員の指示に従い,それぞれの締め切りま 桃の着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.この はする「電気電子工学実験」など主に実 図 実務経験のある教員による授
授業の原	ライブラーニ	6 0 %成のでは ののでは ののでは のでは でくくくでです。 でくくでです。 をこ習 の 多 上 グ	帰点で目標の達成でででででいます。 でででででででででででででででででででででででできます。 できま	を確認する。 を確認する。 ド評価基準する。 にする。 はいて現出出し、中では にはいていいでででででである。 にはいていいでででである。 にはいていいでででである。 というのででである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 ではい,厳格な規律である。また,本事である。また,本事である。また,本事である。また,本事である。	- 0 0 点)とし - を取得するこ - でる基礎的な知 ・ である。担当教職 ・ ですり、真剣な を守り、真剣な を教科は後に学習 ・ 過ごとの到達!	て評価する. レポートの未提出がひとできた。 識. 員の指示に従い, それぞれの締め切りま 跳の着用を義務づける. 重大な怪我なな態度で受講しなければならない. この はする「電気電子工学実験」など主に実 図 実務経験のある教員による授業
授業の原	ライブラーニ	6 0 8 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帰点で目標の達成でで個方法がある。 は一個方法が表す。 は一個方法が表す。 は一個方法が表す。 は一個方法がある。 は一個方法が表す。 は一個方法が表す。 は一個方法が表す。 は一個方法が表す。 は一個方法が表す。 は一個方法がある。 は一個方式がある。 は一個方式がある。 は一句句句句句句句句句句。 は一句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句句	を確認する。	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関すりを作成して提出する。 業服,安全帽,保護ではい,厳格な規律である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語では、また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、ま	2 0 0 点)とした取得するこれでは、 で取得するこれでは、 を取得するな知識を対力、、作業を守り、、真剣な数科は後に学習 のの到達にある。 のの到達にはないだが、 のののでは、はんだが、 のののでは、はんだが、 のののでは、はんだが、 のののでは、これでは、 のののでは、これでは、 のののでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	て評価する. レポートの未提出がひとでき、 識. 員の指示に従い, それぞれの締め切りま 跳の着用を義務づける. 重大な怪我なな態度で受講しなければならない. この はする「電気電子工学実験」など主に実 図 実務経験のある教員による授業 目標
授業の原 □ アクテ 授業計画	ライブラーニ	6 0 % 成	は、	を確認する。 を確認する。 を合言。 を含言。 を含言。 を含言。 を含言。 を知識でもいった。 を知識でもいった。 を知識でもいった。 ののでもいった。 ののでもいった。 ののでもいった。 ののではいった。 ののではいっと。 ののではいった。 ののでは、 ので	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関すりを作成して提出する。 業服,安全帽,保護ではい,厳格な規律である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語では、また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、本語である。また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、ま	00点) とした取得するこれである。 である。担当教職 を対力ネ、作業を守り、真剣な 教科は後に学習 のの到達!	て評価する. レポートの未提出がひとてと. 識. 員の指示に従い, それぞれの締め切りまれの着用を義務づける. 重大な怪我なな態度で受講しなければならない. このはする「電気電子工学実験」など主に実図 実務経験のある教員による授業国標 サ等を行って電気電子回路を作製できるトを使うことができ, 基板を作製できる
授業の原 □ アクテ 授業計画	ライブラーニ	6 0 0 0 0 0 0 0 0 0	帰点で目標の達成ででである。 は、59点で個方は、59点で個方に、59点で個方に、59点で個方に、59点で個方に、59点では、59点では、59点では、59点では、59点では、59点では、50点では、	を確認する。 を確認する。 を含される。 を含される。 を含される。 を含される。 を含される。 を含される。 を含される。 を知識でもいる。 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 定従い,厳格な規律 である。また,本語		て評価する. レポートの未提出がひとてと、 識. 員の指示に従い, それぞれの締め切りまれの着用を義務づける. 重大な怪我なな態度で受講しなければならない. このはする「電気電子工学実験」など主に実図 実務経験のある教員による授業を持ちて電気電子回路を作製できる。 トを使うことができ, 基板を作製できるのて制御することの重要性を理解できる。
授業の原 □ アクテ 授業計画	ライブラーニ	6 0 0 0 0 0 0 0 0 0	は、	を確認する。 を確認する。 を含される。 を含される。 を含される。 を含される。 を含される。 を含される。 を含される。 を知識でもいる。 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 定従い,厳格な規律 である。また,本語	00点) とし た取得するこれ である・ を取得する名 である・ を対ける・ できな知識 を教科は後に学習 できな知識 を教科は後に学習 1. はんだづい 2. CADソフ・ 3. 電気によった。 4. 直流安定に 5. 機械加工の ができる・	て評価する.レポートの未提出がひとでき、 と. 識. 員の指示に従い,それぞれの締め切りまれの着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.このはする「電気電子工学実験」など主に実 ② 実務経験のある教員による授業 日標 一次できるででき、基板を作製できる。 「ないっても、ない。では、まずでは、まずできる。」では、まずできる。ことができ、基板を作製できる。このでは、まずできる。このでは、まずでは、まずできる。このでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずできる。これでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずできる。これでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずできる。これでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まず
授業の原 □ アクテ 授業計画	ライブラーニ	6 Y T T T T T T T T T T T T T T T T T T	は、	を確認する。 を確認する。 を合言。 を含語を表する。 を含語でである。 を対していてのでででである。 をうらのでででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をういたである。 といたである。 といたである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 といたでなな。 といたである。 といたでなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 定従い,厳格な規律 である。また,本語	00点)とし こを取得の当教職 で教科はは後に学習 を教科はは後に学習 で表し、一点の主では、 ででは、 1. はんだづい 2. CADソフ・ 3. 電気によっている。 4. 直流安には、 5. でで旋りででない。 6. 旋りのでは、 6. 旋りのでは、 6. 旋りのでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がのでは、 6. がのでは、	て評価する.レポートの未提出がひとできた。 識. 真の指示に従い,それぞれの締め切りまれの着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.このはする「電気電子工学実験」など主に実図実務経験のある教員による授業をできる。 はずる「電気電子工学実験」など主に実図まるできる。 はずる「できるできる。とでは、というでき、基板を作製できる。 ないますることができ、基板を作製できる。 とでは、というでき、基板を作製できる。 ないまするとの重要性を理解できる。 とでは、というできない。 ないますない。 というでは、というできない。 というでは、というできない。 というできない。 というでは、というできる。 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 というできない。 というできない。 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 といいうない
授業の原 □ アクテ 授業計画	ライブラーニ	6 10 10 10 10 10 10 10	は、	を確認する。 を確認する。 を合言。 を含語を表する。 を含語でである。 を対していてのでででである。 をうらのでででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をういたである。 といたである。 といたである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 といたでなな。 といたである。 といたでなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 定従い,厳格な規律 である。また,本語	00点)とし こを取得の当教職 で教科はは後に学習 を教科はは後に学習 で表し、一点の主では、 ででは、 1. はんだづい 2. CADソフ・ 3. 電気によっている。 4. 直流安には、 5. でで旋りででない。 6. 旋りのでは、 6. 旋りのでは、 6. 旋りのでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がのでは、 6. がのでは、	て評価する.レポートの未提出がひとでき、 と. 識. 員の指示に従い,それぞれの締め切りまれの着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.このはする「電気電子工学実験」など主に実 ② 実務経験のある教員による授業 日標 一次できるででき、基板を作製できる。 「ないっても、ない。では、まずでは、まずできる。」では、まずできる。ことができ、基板を作製できる。このでは、まずできる。このでは、まずでは、まずできる。このでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずできる。これでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずできる。これでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずできる。これでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まずでは、まず
授業の原 □ アクテ 授業計画	ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	6 1 1 1 1 1 1 1 1 1	は、	を確認する。 を確認する。 を合言。 を含語を表する。 を含語でである。 を対していてのでででである。 をうらのでででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をういたである。 といたである。 といたである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 といたでなな。 といたである。 といたでなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 定従い,厳格な規律 である。また,本語	00点)とし こを取得の当教職 で教科はは後に学習 を教科はは後に学習 で表し、一点の主では、 ででは、 1. はんだづい 2. CADソフ・ 3. 電気によっている。 4. 直流安には、 5. でで旋りででない。 6. 旋りのでは、 6. 旋りのでは、 6. 旋りのでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がのでは、 6. がのでは、	て評価する.レポートの未提出がひとできた。 識. 真の指示に従い,それぞれの締め切りまれの着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.このはする「電気電子工学実験」など主に実図実務経験のある教員による授業をできる。 はずる「電気電子工学実験」など主に実図まるできる。 はずる「できるできる。とでは、というでき、基板を作製できる。 ないますることができ、基板を作製できる。 とでは、というでき、基板を作製できる。 ないまするとの重要性を理解できる。 とでは、というできない。 ないますない。 というでは、というできない。 というでは、というできない。 というできない。 というでは、というできる。 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 というできない。 というできない。 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 といいうない
授業の原 □ アクテ 授業計画	ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	6 1 1 1 1 1 1 1 1 1	は、	を確認する。 を確認する。 を合言。 を含語を表する。 を含語でである。 を対していてのでででである。 をうらのでででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのででである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのでである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をうらのである。 をういたである。 といたである。 といたである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 をうのである。 といたでなな。 といたである。 といたでなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 定従い,厳格な規律 である。また,本語	00点)とし こを取得の当教職 で教科はは後に学習 を教科はは後に学習 で表し、一点の主では、 ででは、 1. はんだづい 2. CADソフ・ 3. 電気によっている。 4. 直流安には、 5. でで旋りででない。 6. 旋りのでは、 6. 旋りのでは、 6. 旋りのでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がのでは、 6. がのでは、	て評価する.レポートの未提出がひとできた。 識. 真の指示に従い,それぞれの締め切りまれの着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.このはする「電気電子工学実験」など主に実図実務経験のある教員による授業をできる。 はずる「電気電子工学実験」など主に実図まるできる。 はずる「できるできる。とでは、というでき、基板を作製できる。 ないますることができ、基板を作製できる。 とでは、というでき、基板を作製できる。 ないまするとの重要性を理解できる。 とでは、というできない。 ないますない。 というでは、というできない。 というでは、というできない。 というできない。 というでは、というできる。 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 というできない。 というできない。 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 といいうない
授業の原 □ アクテ 授業計画	ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	6 1 1 1 1 1 1 1 1 1	は、	を確認する。 を確認する。 を合言。 を含語を表する。 を含語を表する。 を含まする。 を対していていてのででででである。 を含さないでででである。 を含さなででである。 を含さなででである。 をできる。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をできる。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をである。 をでする。 をでる。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでなる。 をでな。 をでする。 をでな。 をでな。 をでなな。 をでする。 をでな。 をでな。 をでな。 をでなな。 をでなな。 をでなな。 をでなな。 をでなな。 をでな。 をでな。	価して100%(1 業成績で60点以上の数学,理科に関す トを作成して提出す 業服,安全帽,保護 定従い,厳格な規律 である。また,本語	00点)とし こを取得の当教職 で教科はは後に学習 を教科はは後に学習 で表し、一点の主では、 ででは、 1. はんだづい 2. CADソフ・ 3. 電気によっている。 4. 直流安には、 5. でで旋りででない。 6. 旋りのでは、 6. 旋りのでは、 6. 旋りのでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がでは、 6. がのでは、 6. がのでは、	て評価する.レポートの未提出がひとできた。 識. 真の指示に従い,それぞれの締め切りまれの着用を義務づける.重大な怪我なな態度で受講しなければならない.このはする「電気電子工学実験」など主に実図実務経験のある教員による授業をできる。 はずる「電気電子工学実験」など主に実図まるできる。 はずる「できるできる。とでは、というでき、基板を作製できる。 ないますることができ、基板を作製できる。 とでは、というでき、基板を作製できる。 ないまするとの重要性を理解できる。 とでは、というできない。 ないますない。 というでは、というできない。 というでは、というできない。 というできない。 というでは、というできる。 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 というできない。 というできない。 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 というできない。 というでは、 といいうない

分類	分野	学習内容	五		到達レ	ベル 授業週	
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	0	80	0	20	0	0	100
配点	0	80	0	20	0	0	100

鈴周	[工業高等	等専門学校	開講年度	令和06年度(2024年度)	授業	科目 二	L学基礎実験		
科目基础								-		
科目番号	ACIDTA	0003			科目区分	車	門 / 必修			
授業形態		実験・実習	2		単位の種別と単位		<u>」,必修</u> 修単位: 1			
授耒形態 美殿・美音 開設学科 電気電子]					対象学年	1				
			L J 1 17		週時間数	2				
開設期前期			金定数 到 聿 「 電 与 后	192 (上) コロ+						
教科書/教	対	書:岩本洋	東定教科書「電気型 羊著「絵とき電気基	路(エ)」コロノ 礎入門早わかり」	オーム社、「電気	全必携」国立高等専門学校機構,配布プリント,参考 、・電子工学に関する入門書」各種・多数有り				
担当教員	-m	西村 一寛								
到達目標				>=				· ·		
工学にお の直並列 ルーブ!		心を高め、電気とホッフの法則	え電子工学を学ぶた 則,分圧・分流,フ	が いっぱい あいま がい かい	路などの基礎事項 電子工学の基礎事	を埋解する項などにつ	。 配荷と いて, 理	(電流, 電圧, オームの 理解を深める.	の法則,抵抗	
ルーン:	フック		T田おりたとないまし		無が出かれています。			+ 70 キレ ベル の口穴		
			理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目を			未到達レベルの目安		
評価項目	1		オームの法則や電気抵抗の直並列 接続に関する応用問題を解くこと ができる.		オームの法則いる 接続に関する基準 ができる.	オームの法則や電気抵抗の直接続に関する基本問題を解くができる.		オームの法則や電気抵抗の直並列 接続に関する基本問題を解くこと ができない.		
評価項目2			キルトル・カー キルト・カー キルト・カー キルト・カー ナル・カー ナー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー		キルヒホッフの に関する基本問題 きる.	キルヒホッフの法則や分圧,分流 に関する基本問題を解くことがで		キルヒホッフの法則や分圧,分流 に関する基本問題を解くことがで きない.		
評価項目3			その他,電気電子工学の基礎事項 に関する応用問題を解くことがで きる.		その他, 電気電子に関する基本問題	子工学の基 題を解くこ	礎事項 とがで	その他,電気電子工に関する基本問題を きない.		
学科の発	到達目標.	項目との関係	—— <u>——</u> 系						·	
		= = = = = = = = = = = = = = =	-							
			▶校への導入教育の位置づけで開講されており,この授業は電気電子工学に対する導入のためのものであり 各の基本を学び、5年間で学ぶ電気電子工学への関心を高めるとともに,技術者として何を学ぶべきかを考え 身に付ける.						ちのであり べきかを考え	
授業の進	め方・方法	・「授業計	†画ーにおける各週	圆の「到達自標Ⅰは	> <専門> <展開) この授業で習得す 習形式で行う. 講	る「知識・	能力しに	相当するものとする. する.		
		120%とし	いまでは できまない しょう しゅう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょ	評価基準>後期中 評価する. ただし	間および学年末の2 , 後期中間試験で	2回の試験の 60点に達	の平均点 していな	により評価する.達成 点以上の得点で目標の を80%,課題レポー い者には再試験を課	トの結果を すことがある	
注意点		く2 : 換くとも修いめ、 ー 、	の評価方法および って、その合計点で き、再試験の成績が りとする。 得要件>学業成績で 必要求される基礎 要求される知識は特 など>学習内容の 教科は2年次で学	評価基準>後期中に 評価する、ただし 試験の成績を上回 60点以上を取得 知識の範囲>本教 にないが、前期ま 復習と応用力の育 習する電気回路、	間および学年末の2 ,,後期中間試験で 1った場合には,6 すること. 科は電気電子工学をでに学んだ数学や 成のため,随時,源 電気電子工学実験の	2 回の試験(6 0 点に達 6 0 点に達 0 点を上限 空学習する(物理に関す 質習課題を D基礎となる	の平均点 していな、 こ当たっ る基礎知 与える。 る教科で		トの結果を すことがある の成績で置き (科である. あ ておく必要が	
	電性・層	く2 : 換くとも修んとともの得じまかるともの得じまかるしい。 ポ考るとは (特別) からある (特別) からある (特別) からない からない からない からない からない からない からない からない	の評価方法および って、その合計点で き、再試験の成績が りとする。 得要件>学業成績で 必要求される基礎 要求される知識は特 など>学習内容の 教科は2年次で学	評価基準>後期中に 評価する、ただし 試験の成績を上回 60点以上を取得 知識の範囲>本教 にないが、前期ま 復習と応用力の育 習する電気回路、	間および学年末の2 ,,後期中間試験で 1った場合には,6 すること. 科は電気電子工学をでに学んだ数学や 成のため、随時、流	2 回の試験(6 0 点に達 6 0 点に達 0 点を上限 空学習する(物理に関す 質習課題を D基礎となる	の平均点 していな、 こ当たっ る基礎知 与える。 る教科で	を80%, 課題レポー い者には再試験を課 試験の成績を再試験の て, 最初に学ぶ基礎教 調識を確実に身につけ	トの結果を すことがある の成績で置き (科である. あ ておく必要が	
授業の原		< 2 0	の評価方法および して、その合計点で を、再試験の成績か りとする。 学学学成績で が要求される基礎 要求される知識は特 など>学習内容の 教科は2年次で学 ともに、知識確認の	評価基準>後期中に 評価する、ただし 試験の成績を上回 60点以上を取得 知識の範囲>本教 にないが、前期ま 復習と応用力の育 習する電気回路、	間および学年末の2, 後期中間試験で1つた場合には, 6 すること. 科は電気電子工学をでに学んだ数学や成のため, 随時, 液電気電子工学実験の問題を解いていく	2 回の試験を6 0 点に達限 6 0 点を上限 で 学習に関する で 物理に関する 質習課題を を 変勢が大切	の平均点 していな、 こ当たっ る基礎知 与える。 る教科で	を80%, 課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験の成績を再試験の成績を再試験の成績を再試験の、最初に学ぶ基礎教識を確実に身につける。授業中に理解で	トの結果をすことがあるるの成績で置きなけである。 あておく必要ができるように心	
授業の原	<u>属性・履</u> ティブラー:	< 2 0	の評価方法および って、その合計点で き、再試験の成績が りとする。 得要件>学業成績で 必要求される基礎 要求される知識は特 など>学習内容の 教科は2年次で学	評価基準>後期中に 評価する、ただし 試験の成績を上回 60点以上を取得 知識の範囲>本教 にないが、前期ま 復習と応用力の育 習する電気回路、	間および学年末の2 ,,後期中間試験で 1った場合には,6 すること. 科は電気電子工学をでに学んだ数学や 成のため,随時,源 電気電子工学実験の	2 回の試験を6 0 点に達限 6 0 点を上限 で 学習に関する で 物理に関する 質習課題を を 変勢が大切	の平均点 していな、 こ当たっ る基礎知 与える。 る教科で	を80%, 課題レポー い者には再試験を課 試験の成績を再試験の て, 最初に学ぶ基礎教 調識を確実に身につけ	トの結果をすことがあるるの成績で置きである。 あておく必要ができるように心	
受業の原 〕 アクラ	ティブラー	< 2 0	の評価方法および して、その合計点で を、再試験の成績か りとする。 学学学成績で が要求される基礎 要求される知識は特 など>学習内容の 教科は2年次で学 ともに、知識確認の	評価基準>後期中に 評価する、ただし 試験の成績を上回 60点以上を取得 知識の範囲>本教 にないが、前期ま 復習と応用力の育 習する電気回路、	間および学年末の2, 後期中間試験で1つた場合には, 6 すること. 科は電気電子工学をでに学んだ数学や成のため, 随時, 液電気電子工学実験の問題を解いていく	2 回の試験を6 0 点に達限 6 0 点を上限 で 学習に関する で 物理に関する 質習課題を を 変勢が大切	の平均点 していな、 こ当たっ る基礎知 与える。 る教科で	を80%, 課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験の成績を再試験の成績を再試験の成績を再試験の、最初に学ぶ基礎教識を確実に身につける。授業中に理解で	トの結果をすことがあるるの成績で置きである。 あておく必要ができるように心	
授 業 の原 」 アクラ	ティブラー	< 1	の評価方法および して、その合計点で を、再試験の成績か りとする。 学学学成績で が要求される基礎 要求される知識は特 など>学習内容の 教科は2年次で学 ともに、知識確認の	評価基準>後期中に 評価する、ただし 試験の成績を上回 60点以上を取得 知識の範囲>本教 にないが、前期ま 復習と応用力の育 習する電気回路、	間および学年末の2, 後期中間試験で1つた場合には, 6 すること. 科は電気電子工学をでに学んだ数学や成のため, 随時, 液電気電子工学実験の問題を解いていく	2 回の試験を6 0 点に達限 6 0 点を上限 で 学習に関する で 物理に関する 質習課題を を 変勢が大切	の平均点にして、 こ当たっ、 こ当を愛知 ラえる。 ラネ教科である。 である。	を80%, 課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験の成績を再試験の成績を再試験の成績を再試験の、最初に学ぶ基礎教識を確実に身につける。授業中に理解で	トの結果をすことがあるるの成績で置きなけである。 あておく必要ができるように心	
受業の原 〕 アクラ	ティブラー	< 2 こ	『の評価方法および 」、て、その合計点で を、、再試験の成績が りとする。 『要件〉学業成績で 必要求される基礎 でする。 『要件〉学習内容の 教科は2年次で学 ともに、知識確認の □ ICT 利用	評価基準>後期中に 評価する、ただし 試験の成績を上回 60点以上を取得 知識の範囲>本教 にないが、前期ま 復習と応用力の育 習する電気回路、 かために常に多くの	間および学年末の2 , 後期中間試験で 1った場合には, 6 すること 科は電気電子工学を でに学んだ数学や 或のため, 随時, 没 電気電子工学実験の 問題を解いていく	2回の試験を60点に達取60点を上間でするでは、2回の試験を2回では、2回では、2回では、2回では、2回では、2回では、2回では、2回では、	の平均点に していた。 こ当たで、 こ当基礎知 ラえ教科る。 である。 である。 別達目標	を80%, 課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験の成績を再試験の成績を再試験の成績を再試験の、最初に学ぶ基礎教識を確実に身につける。授業中に理解で	トの結果をすことがあるるの成績で置きである。 あておく必要ができるように心	
受 業 の原 〕 アクラ	ティブラー	< 2 0 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	順の評価方法および して、その合計点で と、再試験の成績が りとする。 得要件>学業成績で 必要求される知識は特 など>学習内容の 教科は2年次で学 ともに、知識確認の □ ICT 利用	評価基準>後期中に 評価する、ただし 試験の成績を上回 60点以上を取得 知識の範囲>本教 にないが、前期ま 復習と応用力の育 習する電気回路、 かために常に多くの	間および学年末の2 , 後期中間試験で 1った場合には, 6 すること 科は電気電子工学を でに学んだ数学や 或のため, 随時, 没 電気電子工学実験の 問題を解いていく	2回の試験を60点に達取60点を上間でするでは、2回の試験を2回では、2回では、2回では、2回では、2回では、2回では、2回では、2回では、	の平均点に していた。 こ当たで、 こ当基礎知 ラえ教科る。 である。 である。 別達目標	を80%, 課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験の成績を再試験のでは、最初に学ぶ基礎教は、最初に学ぶ基礎教は、最初を確実に身につける。授業中に理解では、実務経験のある教	トの結果をすことがあるの成績で置き (科である. あておく必要ができるように心	
受業の原 〕 アクラ	ティブラー	< 1	園の評価方法および して、一年での合計点で をいまする。 はないまする。 はないますされる知識は特別では、 などと、学習内容のでは、 などと、学習内容のでは、 本は、知識確認の □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ ICT 利用	評価基準>後期中 評価する. ただし 試験の成績を上回 60点以上を取得 知識の範囲>本教 にないが, 前期ま 復習と応用力の育 習する電気回路, つ がために常に多くの	間および学年末の2 , 後期中間試験で 1った場合には, 6 すること. 科は電気電子工学やでに学んだ数学や 成のため, 随時、液 電気電子工学表験の が、でに学んだ数学や 成のため、随時、液 でに要した数学や 成のため、随時、液 では要したがでいく	2回の試験達の 60点を上物 習品 2回の試験達限 60点を上物 習品 2回の 3回 2回	か平均点は していて, こ当を確知 こる 基 る える える である である である に	を80%, 課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験の成績を再試験のでは、最初に学ぶ基礎教は、最初に学ぶ基礎教は、最初を確実に身につける。授業中に理解では、実務経験のある教	トの結果をすことがあるるの成績で置きなけである。 あておく 必要ができるように心	
受業の原 〕 アクラ	ティブラー	< 2 この代 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3	順の評価方法および して、その合計点で と、再試験の成績が と、する。 は要件>学業成績で ででする。 ででする。 では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	評価基準>後期中 評価する. ただし 試験の成績を上回 60点以上を取得 知識の範囲>本教 にないが, 前期ま 復習と応用力の育 習する電気回路, つ がために常に多くの	間および学年末の2 , 後期中間試験で 1った場合には, 6 すること. 科は電気電子工学やでに学んだ数学や 成のため, 随時、液 電気電子工学表験の が、でに学んだ数学や 成のため、随時、液 でに要した数学や 成のため、随時、液 では要したがでいく	2回の試験達限 60点上 2回の点を すり 2回の点を すり 3回の点を すり 3回に 2回に 題とが で 電1・記1・2・接 し 説明 1・2・接 し 説明 1・2・2・2 理解 し 説明 1・2・2・2 理解 し 説明 1・2・3・3・3・3・3・3・3・3・3・3・3・3・3・3・3・3・3・3・	の平均点が しとして、, こ当を礎知 ラる教ある。で は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	を80%,課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験で、最初に学ぶ基礎教訓念を確実に身につけるある。授業中に理解では、実務経験のある教を説明できる。	トの結果をすことがあるるの成績で置きない。 ない である。 をでいる かいまま かいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま は	
授 業 の原 」 アクラ	ティブラー	< 1	して、 ででは、	評価基準>後期中に評価する。ただし、試験の成績を上回60点以上を取得知識の範囲と本教にはないが、前期までないが、前期までではいが、前期まではいが、前期まではいが、前期までは、10元のに常に多くの10元のに常に多くの10元のに常に多くの10元のに常に多くの10元の法則、10元の法則	間および学年末の2 , 後期中間試験で 1った場合には, 6 すること. 科は電気電子工学やでに学んだ数学や 成のため, 随時、液 電気電子工学表験の が、でに学んだ数学や 成のため、随時、液 でに要した数学や 成のため、随時、液 では要したがでいく	2回の試験は60点と 1回の試験は60点を 1の点を 1の点を 1の点を 1の点を 1の点を 1の点を 1の点を 1の	かいた。 ローと しと しと しと 当 基礎 ここる まる教ある で まるで	を80%, 課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験で、最初に学ぶ基礎教訓練を確実に身につけずある. 授業中に理解では、実務経験のある教を説明できる. オームの法則, 電位, できる.	トの結果をすことがあるるの成績で置きない。 ない である。 あいま である かいま である まま でおく 必要が できるように 心 対負による授業 電位差などを	
授 業 の原 」 アクラ	ティブラー:	く2 に	順の評価方法および して、一点に して、再試験の成績が では、とすると はなど、学業の表達は では、となされる知識は特別では、2年では、知識確認の では、知識確認の は、知識でで学される用 は、知識ででででででは、 は、知識ででででででです。 では、知識でででででででです。 では、知識でででででです。 では、知識でででででです。 では、知識でででできる。 では、知識ででいます。 では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	評価基準>後期中に対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、	間および学年末の2 , 後期中間試験で 1った場合には, 6 すること. 科は電気電子工学やでに学んだ数学や 成のため, 随時、液 電気電子工学表験の が、でに学んだ数学や 成のため、随時、液 でに要した数学や 成のため、随時、液 では要したがでいく	2 回の点を 6 0 点を 9 世 9 世 9 世 9 世 9 世 9 世 9 世 9 世 9 世 9 世	かしと こる まる教ある きる教ある 単位 原味 単位 原味 を理解 した から を理解 した から	を80%,課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験で、最初に学ぶ基礎教訓識を確実に身につけるある。授業中に理解である。授業中に理解では、実務経験のある教を説明できる。 オームの法則、電位、できる。 説明や計算ができる。 定理解し、抵抗値を求	トの結果をすことがあるの成績である。 あておく必要ができるように心な真による授業電位差などを	
受 業 の原 〕 アクラ	ティブラー:	Control Co	順の評価方法および して、一点に いて、再試験の成績が いとする。 はと、学業の人 要ではる知識は特別では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点	評価基準>後期中に対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、	間および学年末の2 , 後期中間試験で 1った場合には, 6 すること. 科は電気電子工学やでに学んだ数学や 成のため, 随時、液 電気電子工学表験の が、でに学んだ数学や 成のため、随時、液 でに要した数学や 成のため、随時、液 では要したがでいく	2 回の点を 6 0 点 9 理に 3 と 3 と 4 き 5 . 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に	かしと こる	を80%,課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験で課意試験の成績を再試験では、最初に学ぶ基礎教訓識を確実に身につけずある。授業中に理解では、実務経験のある教を説明できる。オームの法則、電位、できる。、説明や計算ができる。で理解し、計算できる。	トの結果を すことがで である。あ でおくがである。あ でおくがで きるように心 対員による授業 電位差などを 。 。 めることがで	
受業のI] アクラ	ティブラー:	Control of the co	園の評価方法および して、一点に いて、再試験のの のとするに のとするに のとするに のとするに のとするに のとするに のとするに のとされ ではない ではない ではない ではない ではない ではない ではない ではて、知識確認の ではて、知識でで認い ではて、知識でで認い ではて、知識でで認い では、知識でで認い では、知識では、 では、知識では、 では、知識では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	評価基準>後期中に対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、	間および学年末の2 , 後期中間試験で 1った場合には, 6 すること. 科は電気電子工学やでに学んだ数学や 成のため, 随時、液 電気電子工学表験の が、でに学んだ数学や 成のため、随時、液 でに要した数学や 成のため、随時、液 では要したがでいく	2 回の点を 6 0 点 2 回の点を 6 0 点 2 回の点を 5 世 2 世 3 世 3 世 4 世 5 世 5 世 8 世 9	アード で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	を80%,課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験で課意が表して、最初に学ぶ基礎教識を確実に身につけるある。授業中に理解では、実務経験のある教を説明できる。 オームの法則,電位,ごきる。 理解し,計算できる。 で理解し,計算できる。	トの結果を すことがあるる。 が である。ま でおく必要が できるように心 対員による授業 電位差などを こ。 が である。ま である。ま である。 である。 が である。 である。 が である。 が である。 が である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	
受業の原] アクラ 受業計画	ティブラー:	Yell = 1	園の評価方法および 「大き」ででは、 「大き」ででは、 「大き」ででは、 「おいます。」では、 「はいます。」では、 「はいます。」では、 「はいます。」では、 「はいます。」では、 「はいまする。」では、 「はいます。 「はいます。 「はいまます。 「はいます。 「はいます。 「はいます。 「はいます。 「はいます。 「はいまます。 「はいまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	評価基準 > 後期中に評価を表現では、ただしに計験の成績を上回60点以上を取得がまたに対した。	間および学年末の2 , 後期中間試験で , 後期中間試験で つた場合には, 6 すること。 科は電気電子工学を でに学んだ数学や 成のため、随時、源電気電子エ学実験の 間題を解いていく	2 回 0 点 6 0 点 9 世 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記	のしと こる こる こる こる こる こる で の は に に に に に に に に に に	を80%,課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験で課試験の成績を再試験で、最初に学ぶ基礎教訓 を確実に身につける。授業中に理解では、実務経験のある教を説明できる。 オームの法則,電位,ごきる。 理解し,計算できる。 理解し,計算できる。 の問題を解くことが る試験	トの結果をすことがある。 あておく かん できるように 心 対 具による 授 電位差 などを こことが できる.	
受業の原] アクラ 受業計画	ティブラー:	< 2	園の評価方法および して、一点に いて、再試験のの のとするに のとするに のとするに のとするに のとするに のとするに のとするに のとされ ではない ではない ではない ではない ではない ではない ではない ではて、知識確認の ではて、知識でで認い ではて、知識でで認い ではて、知識でで認い では、知識でで認い では、知識では、 では、知識では、 では、知識では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	評価基準 > 後期中に評価を表現では、ただしに計験の成績を上回60点以上を取得がまたに対した。	間および学年末の2 , 後期中間試験で , 後期中間試験で つた場合には, 6 すること。 科は電気電子工学を でに学んだ数学や 成のため、随時、源電気電子エ学実験の 間題を解いていく	2 回 0 点 6 0 点 9 世 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記 1 記	のしと こる こる こる こる こる こる で の は に に に に に に に に に に	を80%,課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験で課意が表して、最初に学ぶ基礎教識を確実に身につけるある。授業中に理解では、実務経験のある教を説明できる。 オームの法則,電位,ごきる。 理解し,計算できる。 で理解し,計算できる。	トの結果をすことがある。 あておく かん できるように 心 対 具による 授 電位差 などを こことが できる.	
受業の原 アクラ	ティブラー:	Ye Ye Ye Ye Ye Ye Ye Ye	園の評価方法合計 は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	評価基準>後期中に 評価する。ただし 記試験の成績を上回 60点以上を取得知識の範囲と本教に 知識の範囲の前期ま 復習さる電気回路の であいために常に多くの のために常に多くの であいたが、前別ま ではないが、前別ま ではないが、前別ま ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 であいために常に多くの であいたが、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	間および学年末の2 , 後期中間試験で , 後期中間試験で つた場合には, 6 すること。 科は電気電子工学を でに学んだ数学や 成のため、随時、源電気電子エ学実験の 間題を解いていく	2 回0 向2 回2 回	かしと こる ラるで 地達の 単 算解 でき 単 の と に 関 で で 関 に に 関 で で 関 に に 関 で で 関 に に 関 で に 関 で に 関 で に に し い で る で に に し い で で で に に し い で で で で で で で で で で で で で で で で で で	を80%,課題レポーにい者には再試験を課試験の成績を再試験で課試験の成績を再試験で、最初に学ぶ基礎教訓 を確実に身につける。授業中に理解では、実務経験のある教を説明できる。 オームの法則,電位,ごきる。 理解し,計算できる。 理解し,計算できる。 の問題を解くことが る試験	トの結果をすことがである。 あいまま かんしょう かんしょう かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいま	
受業の原] アクラ 受業計画	ライブラー:	Ye A A A A A A A A A	園の評価方法合計 は が は が は が は が が が が が が が が が が が が	評価基準>後期中に 評価する。ただに に対している。 60点以上を取得知識の範囲と本教に にないが、前期ま 復習さる電気回路のである。 のために常に多くの のために常に多くの はないが、電気回路 ではないが、電気回路 が、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、電気回路 ではないが、ではないが、ではないが、ではないが、ではないが、ではないが、ではないが、ではないが、ではないが、ではないが、ではないではないではない。 はないが、ではないが、ではないではないではないではないが、ではないが、ではないが、ではないが、ではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	間および学年末の2 , 後期中間試験で , 後期中間試験で つた場合には, 6 すること。 科は電気電子工学を でに学んだ数学や 成のため、随時、源電気電子エ学実験の 間題を解いていく	2 回 0 点 2 回 0 点 2 回 0 点 2 回 0 点 2 世 1 題 2 世 1 題と大 2 世 1 題と大 2 世 2 世 1 題と大 2 世 2 世 1 題と大 2 世 2 世 1 題と 3 4 き 5 上 上 6 が 7 き が 7 き が 7 き が 7 き か 7 もの 7 を か 7 を	かしと こる ラるで 地達の 単 算解 でき 単 の と に 関 で で 関 に に 関 で で 関 に に 関 で で 関 に に 関 で に 関 で に 関 で に に し い で る で に に し い で で で に に し い で で で で で で で で で で で で で で で で で で	を80%,課題レポーにい者には有試験を課試験の成績を再試験で課試験の成績を再試験で、最初に学ぶ基礎教識を確実に身につけずある.授業中に理解である.授業中に理解である.授業中に理解である. 実務経験のある教を説明できる. オームの法則,電位,ごきる. 理解し,抵抗値を求理解し,抵抗値を求理解し,計算できる. の問題を解くことがる試験 レダクタンスを理解し	トの結果をするがである。 あいまま かんしょう かんしょう はんしょう はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょ はんしょく はんしょ はんしょく はんしょく はんしょく はんしょ はんしょ はんしょ はんしん はんしん はんしん はんしょ はんしん はんしん	
受業の原] アクラ 受業計画	ライブラー:	Yell	して、	評価基準>後期中に記載験の成績を上回を記載験の成績を上回の成績を上回の成績を取得に対している。 60点以上を取得に対している。 別にないが、前期までである。 復習るではである。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	間および学年末の2 , 後期中間試験で , 後期中間試験で つた場合には, 6 すること。 科は電気電子工学を でに学んだ数学や 成のため、随時、源電気電子エ学実験の 間題を解いていく	2 回 0 点 空物 類 2 受物 類 2 受物 類 2 受容	かしと こる ラるで 地達の 単 算解 でき 単 の と に 関 で で 関 に に 関 で で 関 に に 関 で で 関 に に 関 で に 関 で に 関 で に に し い で る で に に し い で で で に に し い で で で で で で で で で で で で で で で で で で	を80%,課題レポーにい者には有試験を課試験の成績を再試験で課試験の成績を再試験で、最初に学ぶ基礎教識を確実に身につけずある.授業中に理解である.授業中に理解である.授業中に理解である. 実務経験のある教を説明できる. オームの法則,電位,ごきる. 理解し,抵抗値を求理解し,抵抗値を求理解し,計算できる. の問題を解くことがる試験 レダクタンスを理解し	トの結果をあるとがある。 ない できる ことがで こことがで こことができる ことがで こことがで こことがで こことがで こことがで こことができる こことができる こことができる こことができる こうこう はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいか	
受業の原 アクラ	ライブラー:	Ye Ye Ye Ye Ye Ye Ye Ye	して、	評価基準>後期中に記載験の成績を上回を記載験の成績を上回の成績を上回の成績を取得に対している。 60点以上を取得に対している。 別にないが、前期までである。 復習るではである。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	間および学年末の2 , 後期中間試験で , 後期中間試験で つた場合には, 6 すること。 科は電気電子工学を でに学んだ数学や 成のため、随時、源電気電子エ学実験の 間題を解いていく	2 回 0 点 を物 習及 2 回 0 点 を物 習及 3 で 電 1 上 2 理解 3 ・	かしと こる ラるで リ達 B 単 算 理 表 を 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1	を80%,課題レポートに対しては、 には有法験を課しては、 最初に学ぶ基礎教 は、最初に学ぶ基礎教 は、最初に学ぶ基礎教 ある.授業中に理解で ある.授業中に理解で を説明できる。 を説明できる。 ないまり、電位、 できる。 できる。 は、記解し、抵抗値を求せる。 できる。	トの結果をするとがである。 あておく 必要による授業ををしている はいまない はいまない はいまない はいまない できる とができる とができる ことができる はいまない 説明や計算ができる はいまない はいまない はいき はいまない はい	
受業の原 アクラ	ライブラー: 画 1stQ	Ye Ye Ye Ye Ye Ye Ye Ye	して、	評価基準>後期中に記載験の成績を上回を記載験の成績を上回の成績を上回の成績を取得に対している。 60点以上を取得に対している。 別にないが、前期までである。 復習るではである。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	間および学年末の2 , 後期中間試験で , 後期中間試験で つた場合には, 6 すること。 科は電気電子工学を でに学んだ数学や 成のため、随時、源電気電子エ学実験の 間題を解いていく	2 回0 6 0を物 習及2 回0 6 点習性3 と選供3 と選供3 と選供3 とまた4 きまた5 上上もかった6 がったまた6 がったまた7 きまた8 きまた9 きまた10 ままた10 ままた1	かしと こる ラるで 関連路 単 算理表 数つりずん でいてい 当基 る教ある 単 算理表 数つりずん がり かい	を80%,課題レポートに対しては、課題レポートに対しては再試験を課しては、最初に学ぶ基礎教育、最初に学ぶ基礎教育を表して、最初に学ぶ基礎教育を記して、また、現実をして、またできる。また。とは、またできる。また。とは、またできる。また。とは、またできる。とは、またできる。また。とは、またできる。また。とは、またできる。また。とは、またできる。とは、またできる。とは、またできる。とは、またできる。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。	トの結果をするとがである。 あいまま とができる ようにん 対量による授業 電位差などを ことができる。 説明や計算ができる。 や計算ができる かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいま	
授業の原	ライブラー: 画 1stQ	Ye Ye Ye Ye Ye Ye Ye Ye	して、	評価基準 > 後期中に 一部 1 を	間および学年末の2 , 後期中間試験で , 後期中間試験で つた場合には, 6 すること。 科は電気電子工学を でに学んだ数学や 成のため、随時、源電気電子エ学実験の 間題を解いていく	2 回0 6 0を物 習及2 回0 6 点習性3 と選供3 と選供3 と選供3 とまた4 きまた5 上上もかった6 がったまた6 がったまた7 きまた8 きまた9 きまた10 ままた10 ままた1	かしと こる ラるで 関連路 単 算理表 数つりずん でいてい 当基 る教ある 単 算理表 数つりずん がり かい	を80%,課題レポートに対しては、 には有法験を課しては、 最初に学ぶ基礎教 は、最初に学ぶ基礎教 は、最初に学ぶ基礎教 ある.授業中に理解で ある.授業中に理解で を説明できる。 を説明できる。 ないまり、電位、 できる。 できる。 は、記解し、抵抗値を求せる。 できる。	トの結果をするとがである。 がいきる ようにん 対員による授業 電位差などを できる ことがで 説明や計算ができる とがで や計算ができる かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう かいこう	
受業の原] アクラ 受業計画	ライブラー: 画 1stQ	< 2	して、	評価基準 > 後期中に 一部 1 を	間および学年末の2 , 後期中間試験で , 後期中間試験で つた場合には, 6 すること。 科は電気電子工学を でに学んだ数学や 成のため、随時、源電気電子エ学実験の 間題を解いていく	2 回 0 点 空物 関 2 型 2 型 3 型 3 型 3 型 3 型 3 型 5 上 上 6 が 7 き 上 上 8 る 9 ・ ロの点を 1 型 3 型 3 型 3 型 3 型 3 型 3 型 3 型 3 型 3 型	かしと こる na	を80%,課題レポートに対しては、課題レポートに対しては再試験を課しては、最初に学ぶ基礎教育、最初に学ぶ基礎教育を表して、最初に学ぶ基礎教育を記して、また、現実をして、またできる。また。とは、またできる。また。とは、またできる。また。とは、またできる。とは、またできる。また。とは、またできる。また。とは、またできる。また。とは、またできる。とは、またできる。とは、またできる。とは、またできる。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。	トの結果をする。 おいことがであるとができるように心なしてあるとができるように心なしているというできる。 いいまない こう	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標										
分類 分野		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週		
専門的能力	分野別の専 門工学			電荷と電流、電圧、電力の関係を理解し、回路の計算に用いることができる。			るこ 2	前1,前2,前 3,前4,前 5,前6,前 7,前8,前9		
		電気・電子 系分野	電気回路	合成抵抗や分圧・分流の考え方を用いて、回路の計算ができる。			る。 2	前10,前 11,前12,前 13,前15,前 16		
				キルヒホッフの法則 電流、電力を計算で	」や重ねの理等の定理を理 ごきる。	圧や 2	前14,前 15,前16			
評価割合										
試験					レポート	合計	<u> </u>			
総合評価割合 80			80	20 100						
配点 80			80		20 100		00			